



千一三村小

中央市立三村小学校
学校だより 第7号
令和6年11月5日
校長 雨宮博之

【学校教育目標】『夢をもち 主体的に学ぶ子どもの育成』（「やる気」「やさしさ」「こん気」「げん気」を育む学校）

もみじ読書週間



10月21日から25日まで、もみじ読書週間を行いました。朝、市内の朗読ボランティア「ひだまり」と「ごらくとんぼ」の皆様にお越しいただき、各クラスに読み聞かせをしていただきました。子どもたちはとても楽しみにしていて、どのクラスもお話を聞き逃すまいと目を輝かせて聞き入っていました。読み聞かせをしてくださった皆様も、子どもたちの学年を考慮しながら、聞きごたえのある作品を選

んでくださいました。子どもたちの中からは「感情を込めて読んでもらおうと、絵本の絵が違って見える」と言った感想も聞かれました。

中休みには、保護者の方にお越しいただき、図書室で読み聞かせをしていただきました。様々な方に関わっていただいて読書週間を終えることができました。ありがとうございました。

よく、保護者の方から、「子どもが本を読まなくて…」「ゲームばかりして…」といった声を伺います。子どもたちの様子をよく見ていると、本嫌いな子どもはとても少ないように感じます。学校で絵本を読んでいると、普段じっとしてられない子どもも、本の近くにきて続きをせがみます。興味のある内容ならいつまでも眺めています。本を読まない子どもたちは、スマホやゲーム、テレビなど、様々な刺激が多すぎて、ゆっくり本を読む時間がないのかもしれませんが。ご家庭でも、テレビもゲームもスマホも消して、家族みんなで本を読む時間を作ってみてはいかがでしょうか。ファミリー読書を利用させていただくのもいいかと思います。日々時間に追われ、忙しく過ごす現代社会だからこそ、たとえ寝る前の15分間でも子どもと一緒に本を読む、そんな時間を大切にしたいと感じます。



陸上記録会



10月17日(木)、6年生が東部班(中央市と昭和町)の陸上記録会に参加しました。本番に向けて学年関係なく多くの教員が関わって、放課後、朝と練習を重ねました。慣れない種目に戸惑っていた児童も、練習を重ねるごとに



上手になり、自分たちで工夫して練習を進めるようになっていきました。



10月9日(水)には、玉穂中学校から陸上部の生徒が練習を教えに来てくれました。毎日練習しているだけあって、さすがの動きをしていました。児童も、身近な先輩の話だけに聞きやすく、コツをつかんでいました。

10月15日(火)には陸上大会に向けた壮行会が行われました。6年生を送り出すために、5年生が中心となって会を運営しました。

堂々とした会の進行で、とても頼もしく感じました。全校児童からの熱い応援が響き、6年生もさらにやる気が出てきたように感じました。

そして迎えた当日、堂々と、胸を張って三村小の代表として大会に出発

しました。どの種目も、一人一人全力で取り組んでいました。緊張の面持ちで順番を待ち、終わってホッとし、結果に一喜一憂しと、様々な表情を見せてくれました。未知なもの、不得意なものに挑戦し、



苦しいこともつらいことも一つ一つ乗り越え、成長していくのだと感じました。大人として、その機会を作り、励まし、じっと見守る、できなかつたことができた！という自信をつけさせてあげることが、子どもにとって大切なのだと感じました。子どもたちの生き生きとした表情を見ながら、効率を追い求め、つい先回りして障壁を取り除き、レールを敷いてしまいがちな現代社会のありかたを、ふと考えさせられました。



10月の風物詩



10月の6年生の廊下は、秋の七草でした。10月は本来過ごしやすく、また、季節の移ろいを感じやすい月でもあります。落葉やドングリなど、子どもたちにとっては自然のおもちゃがいっぱいです。大きなドングリを探すだけでも、目を輝かせて一生懸命になります。落葉のカサカサした音や温かさなど、実際手を触れて感じるものもあります。快適な空間に満たされている現代社会ですが、庭で走り回っている子どもたちをみると、子どもは汚すことが仕事だ、なんていう一昔前の言葉を思い出しました。



5年生は稲刈り体験に行きました。6月に田植え体験で植えた稲が実り、この度収穫を迎えました。当然田んぼは学校にあるわけではなく、地域の方が子どもたちのために用意してくださったものです。生育途中の苦労は全て農家の方にお任せしてのことではありますが、それでも子どもたちには貴重な体験になりました。

お米をはじめ、私たちが食べるものはスーパーに行けばあたりまえに手に入るわけではない、それまでの苦労があることに気づくことができた体験でした。

